



ERM

—貴社のリスク管理体制は？

日本アクチュアリー会 第2回月例会

2013年7月17日

RGAインターナショナル・コーポレーション

グローバル・ファイナンシャル・ソリューション担当エグゼクティブ・ヴァイス・プレジデント兼最高執行責任者

デイビッド・ベッチャー FSA FCIA MAAA

本日の内容

- ERMの概要
- ティリングハスト社ERM調査結果の要点
- CROカウンスルおよびCROフォーラム
 - ComFrame – CROのERM調査
- RGAのERMプログラム概要

RGIA®

謝辞

北米チーフ・リスク・オフィサー・カウンスル

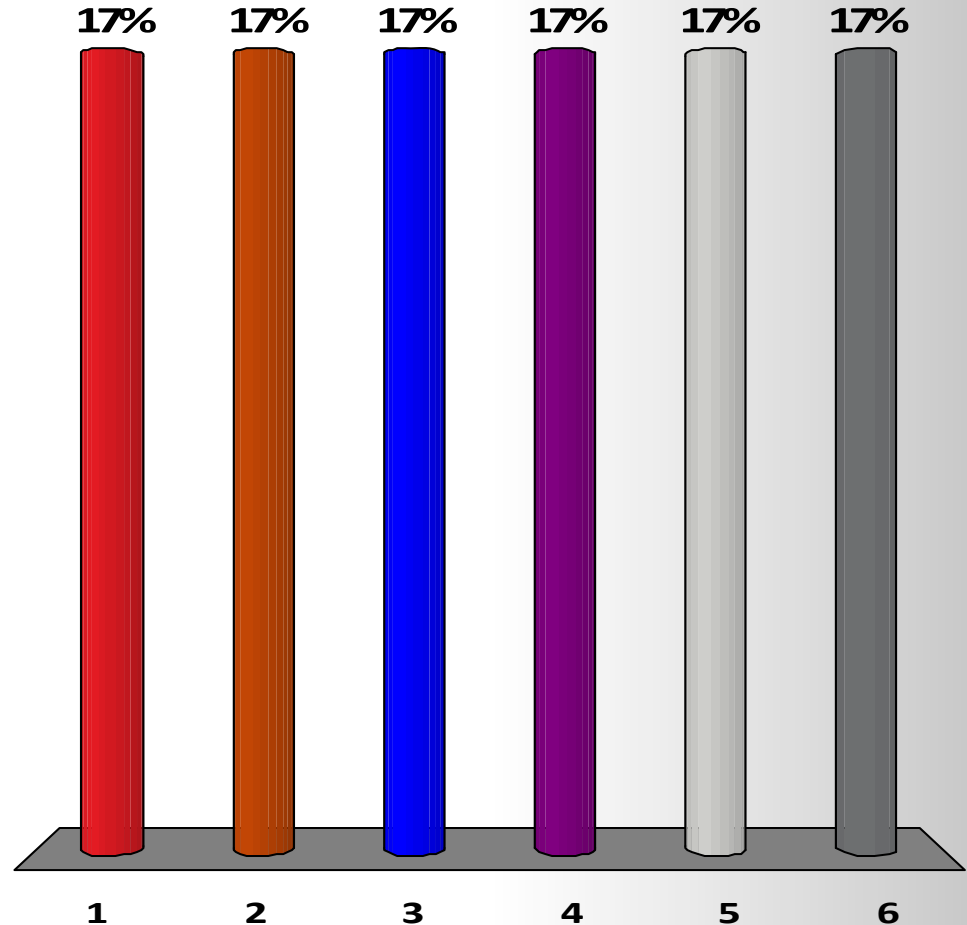
エンタープライズ・リスク・マネジメント

謝辞

- 北米チーフ・リスク・オフィサー・カウンシルは、リスク管理の専門家により構成されており、保険業界でリスク管理が適切に行われるための手法の開発と啓蒙を目的としています
 - 当カウンシルのメンバーは、北米の大手保険会社のチーフ・リスク・オフィサーであり、リスク管理やリスクベースのソルベンシー、流動性評価の発展について指導的役割を果たし、方向性を示すことを担っています
 - 2010年に発足し、暫定的に組織されました
 - 2011年第2四半期に正式に設立されました
- この度の講演にあたり、当カウンシルが作成の上提供している資料を何点か参照し、使用にあたっては当カウンシルの許可を頂きました
- 詳細な情報について、連絡先は以下の通りです
 - **Mike Stein, Chief Risk Officer for RGA, (mstein@rgare.com)**

本日の参加者の所属部門は？

1. リスク管理/チーフアク
チュアリー
2. 経営企画
3. プライシング/商品開発
4. バリュエーション/主計/
財務・経理/運用
5. IT
6. その他



RGA®

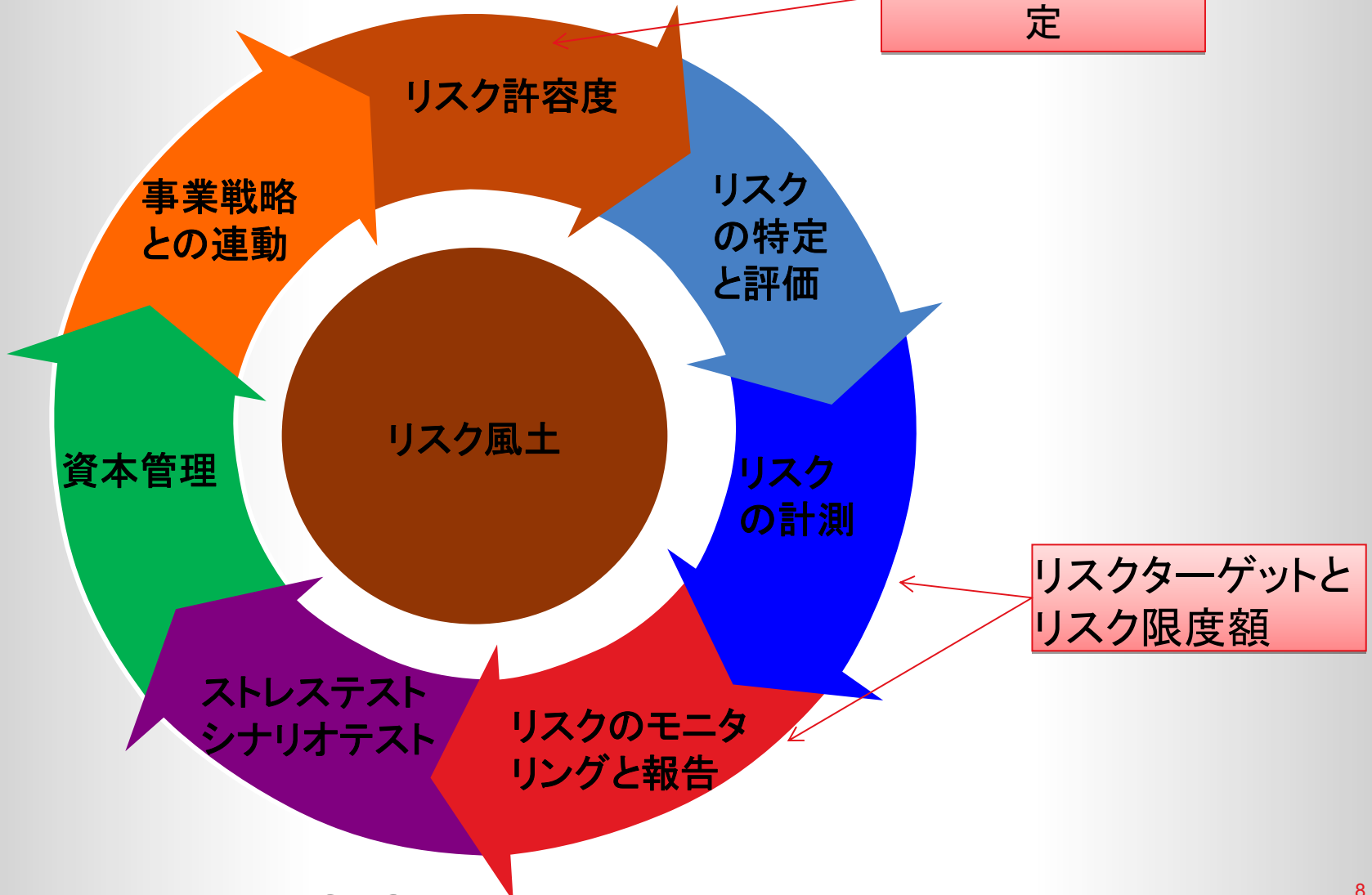
ERMの概要

定義

- ERMとは何か？

- 「出資者にとっての短期的あるいは長期的な企業価値を高めるために、あらゆる角度からリスクを評価し、管理し、活用し、資金を手当てし、監視する企業規律」

リスク管理のフレームワーク*



*North American CRO council

定義

- リスク許容度規定 – 保険会社が引受けるリスクすべての合計最大限度に関する規定。会社レベルのハイレベルなリスク規定。
- リスク選好 – 保険会社がどのようなリスクをどのくらい追及するかを定める。保険会社が優れた能力を有するコアリスクについては、リスク選好は高く、時にコアリスクに伴う、保険会社が差別化能力をもたない付随リスクに対しては、通常低い、あるいは皆無
- リスクターゲット – 事業計画に従って、保険会社が特定のリスクに対して引受けを目指すリスク額の最適範囲
- リスク限度額 – 特定のリスクに対して引受けられる最大リスク額

リスク許容度規定

原則

正式なリスク許容度規定、およびそれに伴うリスク選好、リスクターゲット、リスク限度額は、保険会社のリスク管理に基本的な要素であり、取締役会がリスク許容度規定を理解することで、リスク戦略と統合的になる

解説

- 共通の定義はまだ確定されていないが、リスク許容度規定は、保険会社が目標を追求する上で、引受ける、あるいは回避するリスクの種類や量を記述する
- シニア・マネージメントや役員会が全社的にとるリスクに関して明確な境界を設定するツール
- 収益、資本と流動性、および業務プロセスの連動を図り、ERMと事業戦略の重要なつながりを提供
- 優れた事業慣行に加えて、リスク許容度の文書化への期待が高まる (例: IAIS 原則16.8)
- リスク限度額は、保険会社の事業に関する特性、範囲、複雑性、およびそのリスク・エクスポージャーにより異なる

リスク許容度規定はなぜ必要なのか？

- 会社のリスク許容度に関するハイレベルな見方を提供
 - マネージメントの意思決定や戦略をサポート
 - 取締役が戦略について理解を深めるのに役立つ
- 戦略を支えるため、トップダウンの要件
 - リスクターゲットおよびリスク限度額は更に細かい、ボトムアップの要件
 - リスク許容度規定はリスクターゲットおよびリスク限度額と連動すべき
- リスクターゲットおよびリスク限度額だけでは不十分
 - リスクターゲットやリスク限度額は、特定のリスクに焦点をあて、そのリスクの方向性を定めてモニタリングを行う具体的な測定基準を提供
 - リスク許容度規定には、リスクターゲットやリスク限度額の背景となる考え方が記述され、その中には明示されない会社の重要指標を含む(例:収益の変動性)
 - リスク許容度規定は、様々な個別リスクのうち、会社レベルの全般的リスクを配分するのに役立つ
- ERMの成功事例の一部
- ORSA(リスクとソルベンシーの自己評価)の一部であり、格付機関の期待が高まる

リスク限度額のフレームワーク

グローバルのリスク許容度

- 保有するリスクの合計を定義
- 例: 利用可能なエコノミックキャピタル(EC) 10%を喪失する確率は5%以下

グローバルのリスク限度額

- 特定のリスクを制限
- 例: 長寿リスクのECは正味ECの20%を上回らない

商品・市場のリスク限度額

- 特定の市場や商品へのエクスポージャーに上限を設定
- 例: 変額年金新契約の売り止め

事業会社のリスク限度額

- 事業会社レベルでリスクを制限

グローバルのリスクターゲット

- 特定のリスクの最適水準
- 例: 長寿リスクのECは正味ECの5% ~ 15%の範囲

商品・市場のリスクターゲット

- 特定の市場や商品によるエクスポージャーの望ましいレベル
- 団体生命保険のEC = 正味ECの1% ~ 4%

事業会社のリスクターゲット

- 事業会社レベルのリスクターゲット

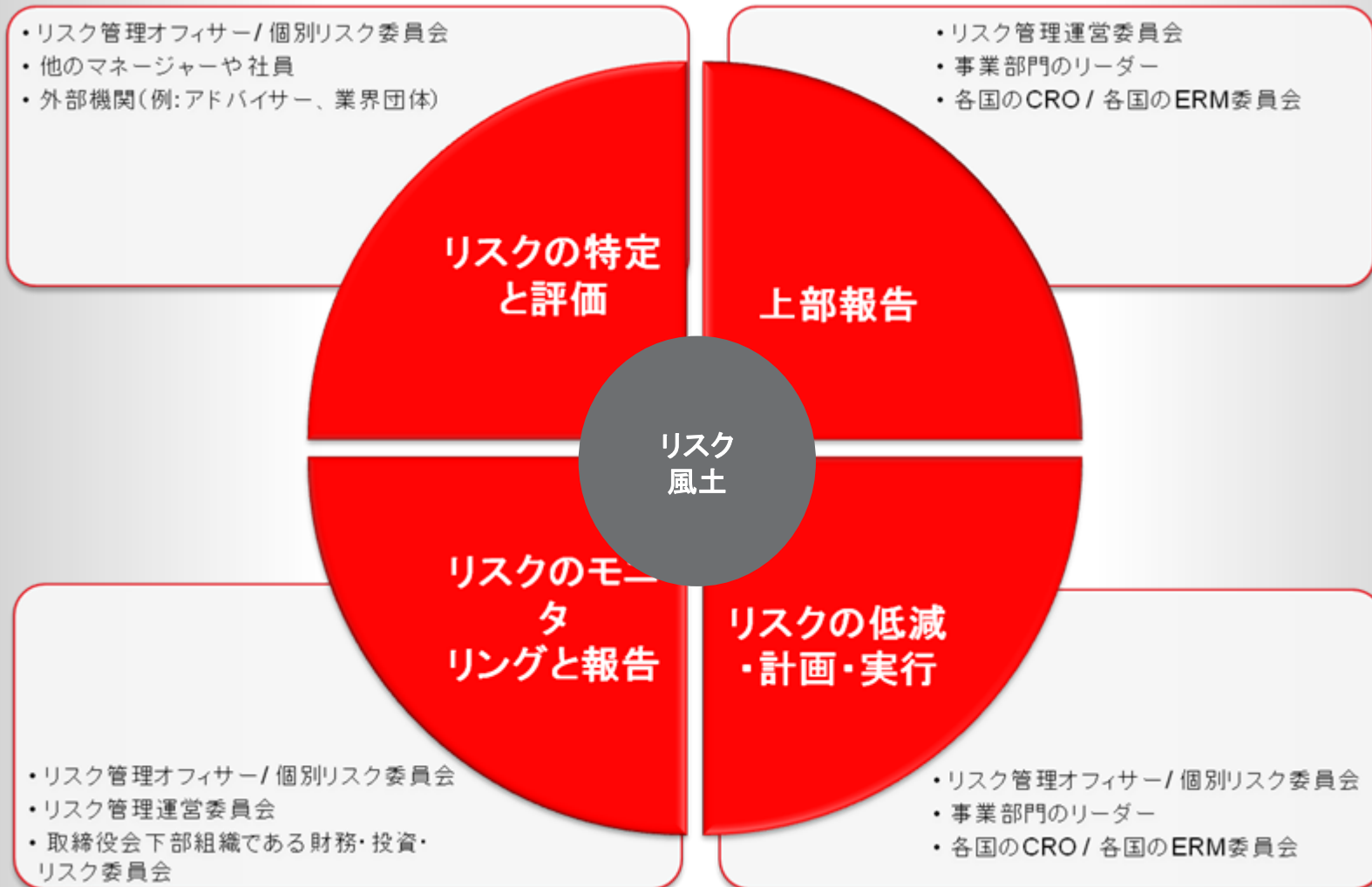
構造的コントロール

- 付加的なリスクのコントロールおよび低減
- 発行者別のカウンターパーティリミット

セグメントのリスク限度額とリスクターゲット

各国のリスク限度額およびリスクターゲット

ERMプロセス



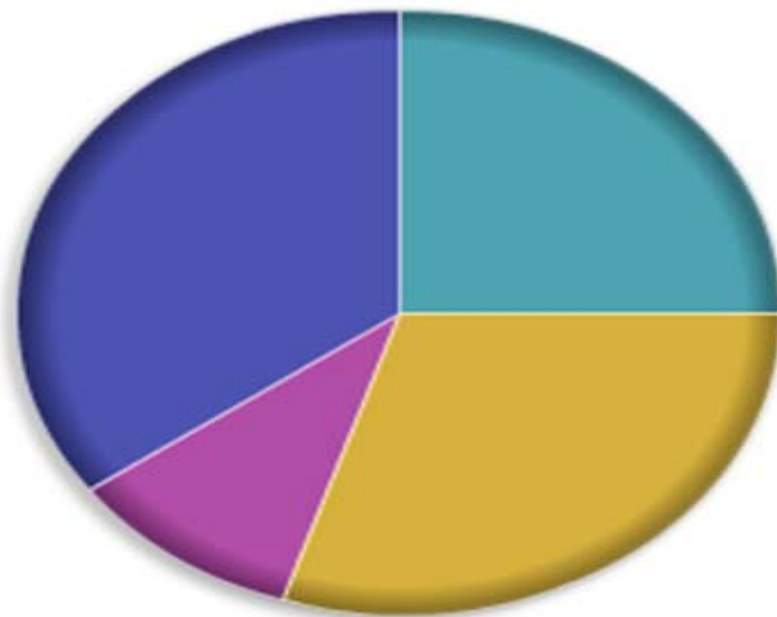
CRO・会社のERMがプロセスを推進

RGA®

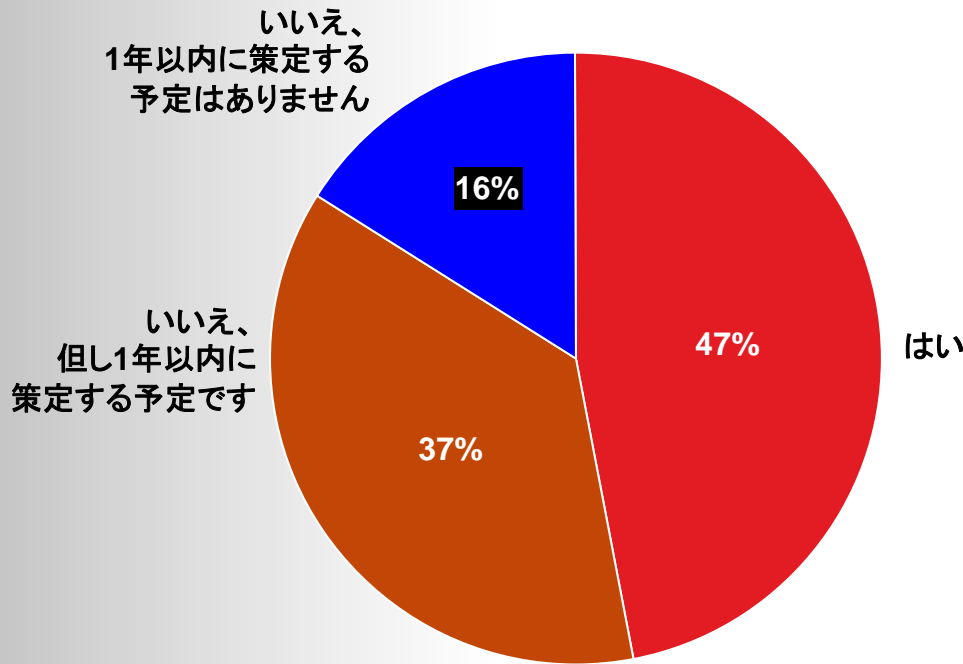
テイリングハスト社ERM調査結果の要点

リスク選好・許容度規定を文書化するプランがありますか？

- A. はい、策定済みです
- B. いいえ、但し1年以内に策定する予定です
- C. いいえ、1年以内に策定する予定はありません



回答者のうち、84% がリスク選好・許容度規定の 文書化を1年以内に完了する

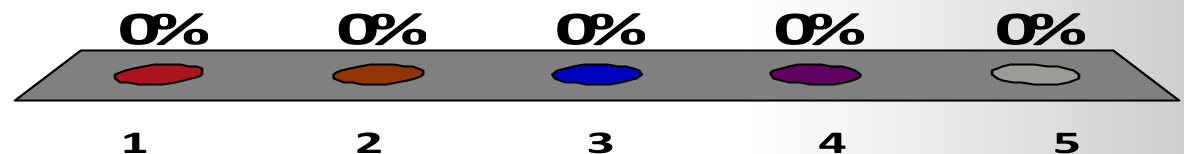


- リスク選好度・許容度規定の策定は小規模企業の方が遅れている

	策定済み	1年以内に策定予定	予定はない
小規模企業	34%	44%	22%
中規模～大企業	57%	33%	10%

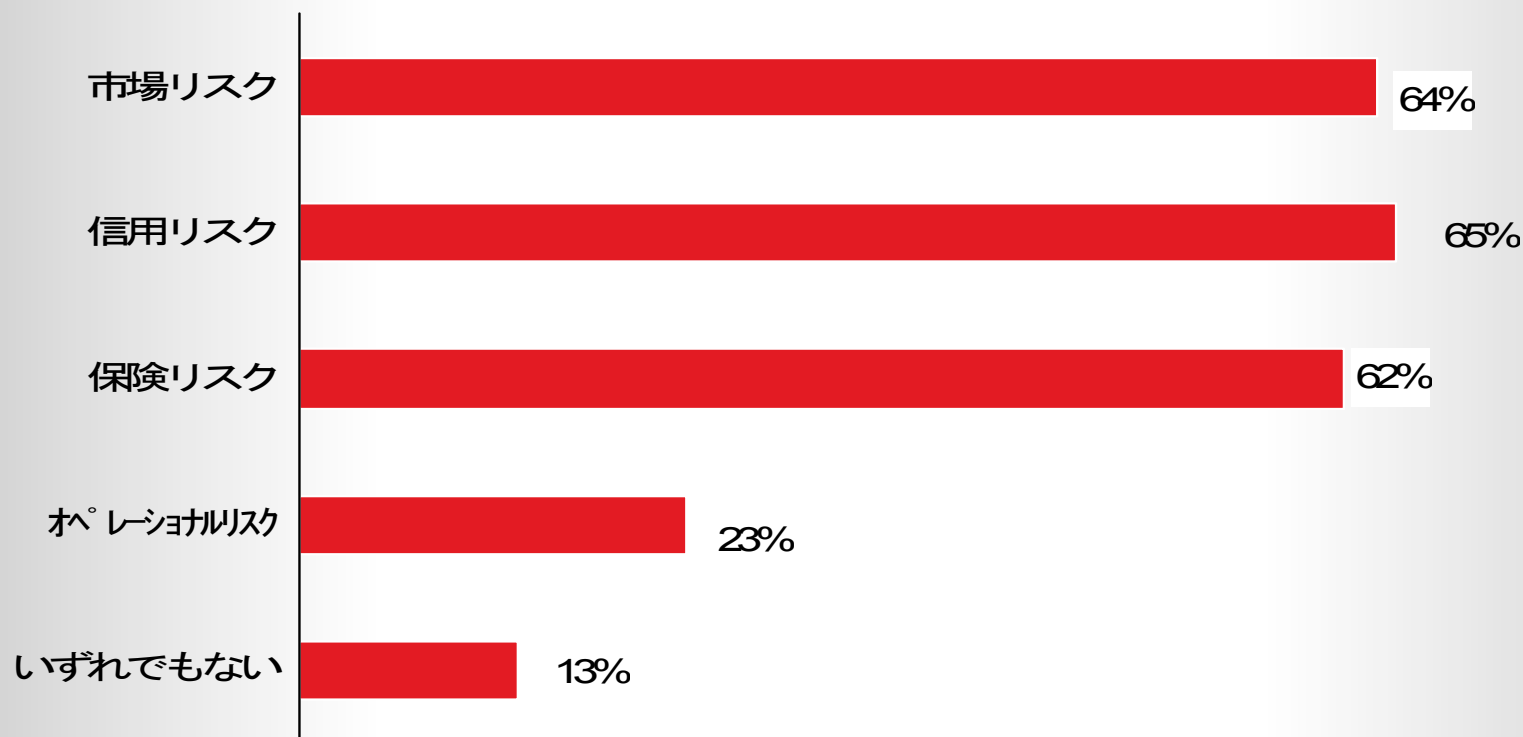
前述の質問の回答が「はい」の場合、リスクの種類は？ (複数回答可)

1. 市場リスク
2. 信用リスク
3. 保険リスク
4. オペレーショナルリスク
5. いずれでもない



大多数の企業が主なリスクに対してリスク限度額を設定しているが、オペレーショナルリスクに関しては、23%に過ぎない

- 北米に比べて、ヨーロッパ企業の方がリスクを管理するため、リスクの限度額を設定している割合が多い
この点では、アジア太平洋が最も遅れている
 - 例えば、信用リスクでは、ヨーロッパ81%と比較して、北米 63%、アジア太平洋43%
- アジア太平洋では、29%が以下のリスクいずれにも限度額を設定していないと回答(日本は 47%)



North American



CRO FORUM

CRO Council and CRO Forum

ComFrame – ERM Survey of CROs

For the IAIS Technical Committee

28th May 2013

貴社のリスク管理体制は？

- 検討すべきこと
 - 貴社のリスク管理体制におけるメリットは？
 - 貴社のリスク管理体制における課題は？
- リスク管理体制は、各社の事業プロファイルやリスク風土の多様性を反映して、オーダーメイドする必要がある

貴社のリスク管理体制は？

- 独立しているが、リスク管理部門に正式なリポーティングラインがある
 - この体制は、リスク管理の3つの防衛線をもち、独立しているが統合されたリスク管理が可能
 - メリット： リスクについて委譲や権限が可能ながら、共通の言語やフレームワークを提供。リスク管理に関する討議が中心レベルで容易にできる
 - 課題：リスク管理のフレームワークを事業部門に浸透させたり、リスク管理情報を各事業会社全体で統一したりすることが困難な可能性がある。アプローチにおける大きな差異や複数のステークホルダー、あるいは事業部門がリスク部門と情報の共有化・伝達をしただらない場合があることに起因する

貴社のリスク管理体制は？

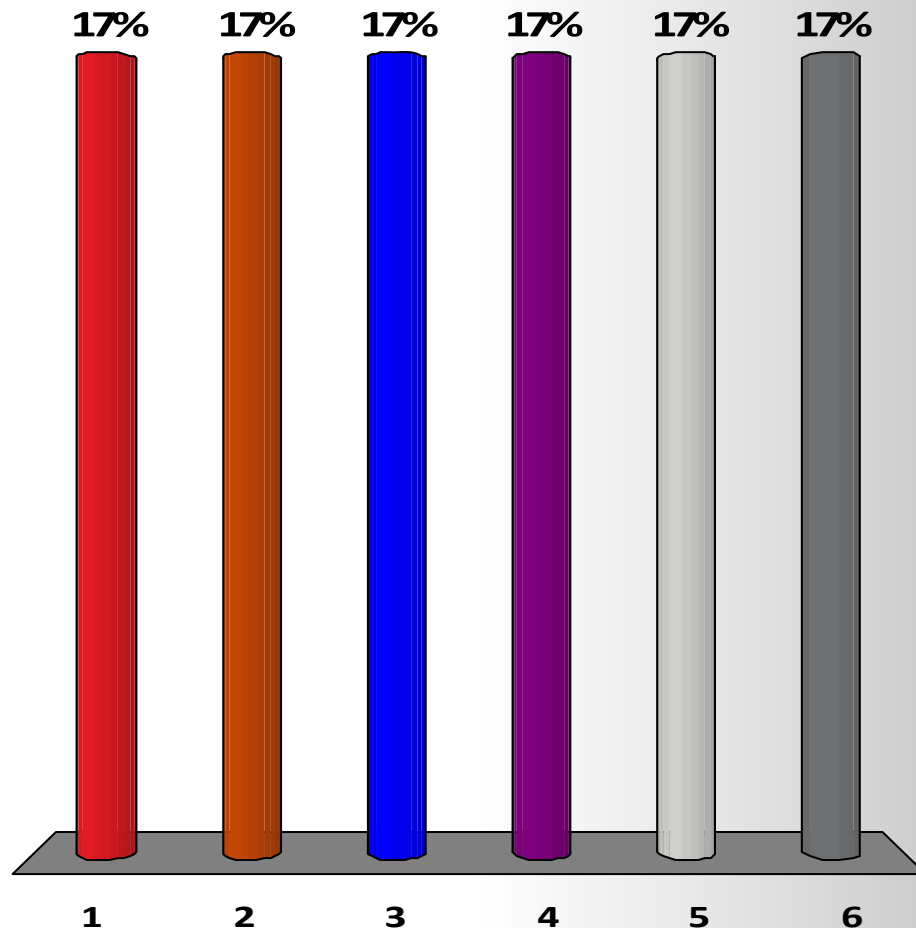
- 独立しているが、リスク管理部門に非公式にリポーティングしている
 - この体制は、リスク管理を事業レベルに根付かせながら、リスク管理部門の強固なリポーティングラインを維持。ビジネス拡大に有益
 - メリット: リスクのコントロールや首尾一貫性が可能で、リスクに近いところにリスク管理権限がある
 - 課題: 正式なリポーティングラインと非公式なもの両方にうまく対応するのが難しいため、コミュニケーションを調整したり、効果的にするのが困難な場合がある
- 事業部門から独立している
 - この体制は、各社が事業を行う種目や地域、他の部門の体制に基づいている。規制要件への順守やERMLレーティングの向上を目的とする場合もある
 - メリット: 独立した機能のため偏向のないリスク管理が可能。効果的で効率的
 - 課題: コミュニケーション、法規制の変化への対応

貴社のリスク管理体制は？

- 分散化しているが事業部門に根付いている
 - この体制は、リスク管理の3つの防衛線をもち、事業部門によるリスクの所有権や責任に加えて、独立した監督が可能
 - メリット：事業部門に分散化した機能があるため、説明責任が可能で事業に近い
 - 課題：グループ全体で首尾一貫したアプローチを達成することや、グループレベルのリポーティングが困難
- 一元化しているが、事業部門にも根付いている
 - この体制は、独立性とリスク管理の識見両方のバランスが最適

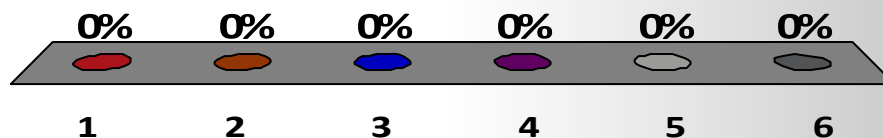
貴社のリスク管理体制は？

1. 独立しているが、リスク管理部門に正式なリポーティングラインがある
2. 独立しているが、リスク管理部門に非公式にリポーティングしている
3. 事業部門から独立している
4. 分散化しているが事業部門に根付いている
5. 一元化しているが、事業部門にも根付いている
6. いずれでもない



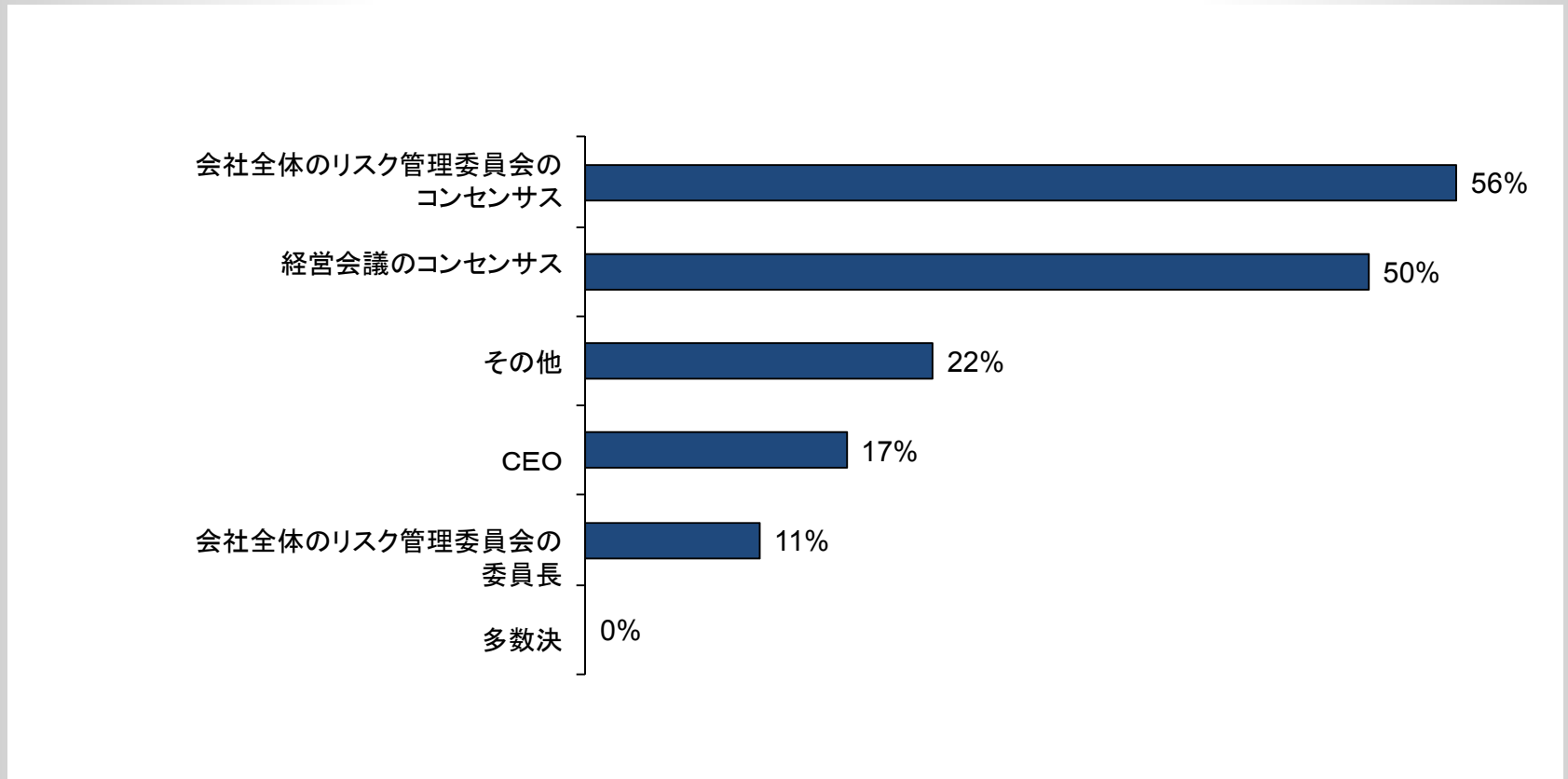
ERMに関連する事項はどのように決定されますか？

1. 会社全体のリスク管理委員会のコンセンサス
2. 経営会議のコンセンサス
3. CEO
4. 会社全体のリスク管理委員会の委員長
5. 多数決
6. その他



ERMに関連する事項は、組織の様々なレベルやガバナンスプロセスを通して決定される

Q. ERMに関連する事項はどのように決定されますか？



「その他」の記入例

- 決定事項により、責任をもつレベルが異なる
- 意思決定プロセスに階層があり、組織において一つのレベルが最終承認を有する

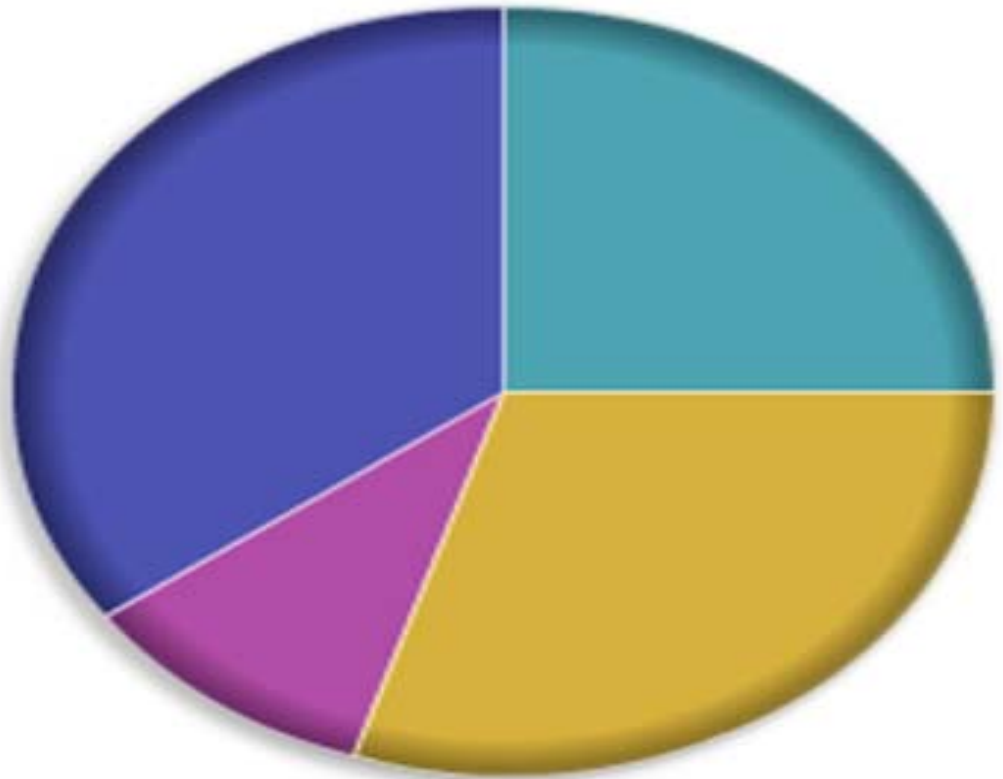
CROとCFOはグループのリスク管理において重要なパートナーであり、それぞれの役割や責任は異なる

Q. グループ内で、CROとCFOの役割はどういう関係にありますか？

- CROとCFOは同僚かつパートナーの関係にある
- CROとCFOは、それぞれ独立し明確に定義された役割をもつ
 - CFOは財務・資本管理に責任がある
 - CROはリスク機能を監督し、リスク管理の防衛線となる
- CROとCFOには、いくつかのリポーティング体制があり得る
 - CROとCFOの双方はCEO・経営会議にレポートする
 - CFOはCOOまたはグループのCFOにレポートする
 - CROはリスク委員会にレポートする
 - CROはCFOに正式にレポートする
 - CROとCFOの双方はCEOにレポートし、CROはCFOに副次的なリポーティングラインがある
 - CFROとして単一のポジションが設けられている

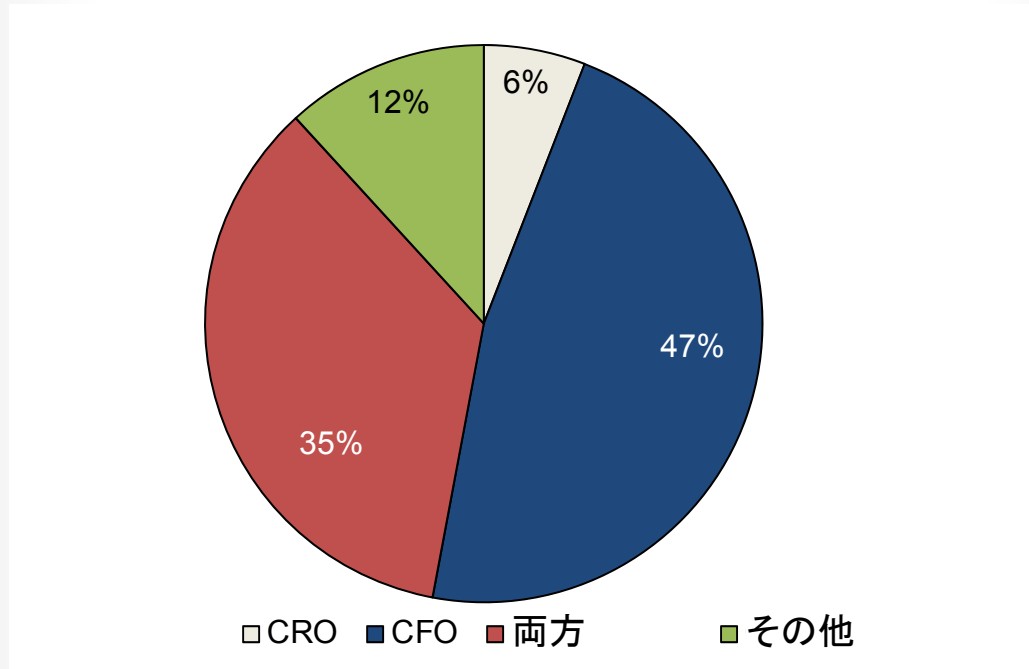
グループ内で資本管理の責任をもつのは？

1. CRO
2. CFO
3. 両方
4. その他



資本管理の責任をもつのは、CRO、CFO、またはその両方の場合があり、管理するリスクの種類によって異なる

Q. グループ内で資本管理の責任をもつのは？

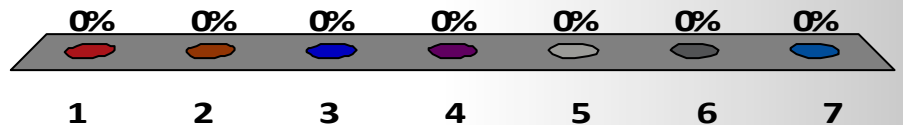


「その他」の記入例

- CFOはソルベンシー資本に責任があり、CROはエコノミックキャピタルに責任をもつ
- 資本管理の責任はCEOおよびCFOにあるが、CROおよびリスク委員会がコントロールを行う
- 資本に関する権限はCFOが有し、資本に関する重大な決定事項はCROやリスク委員会が提出する

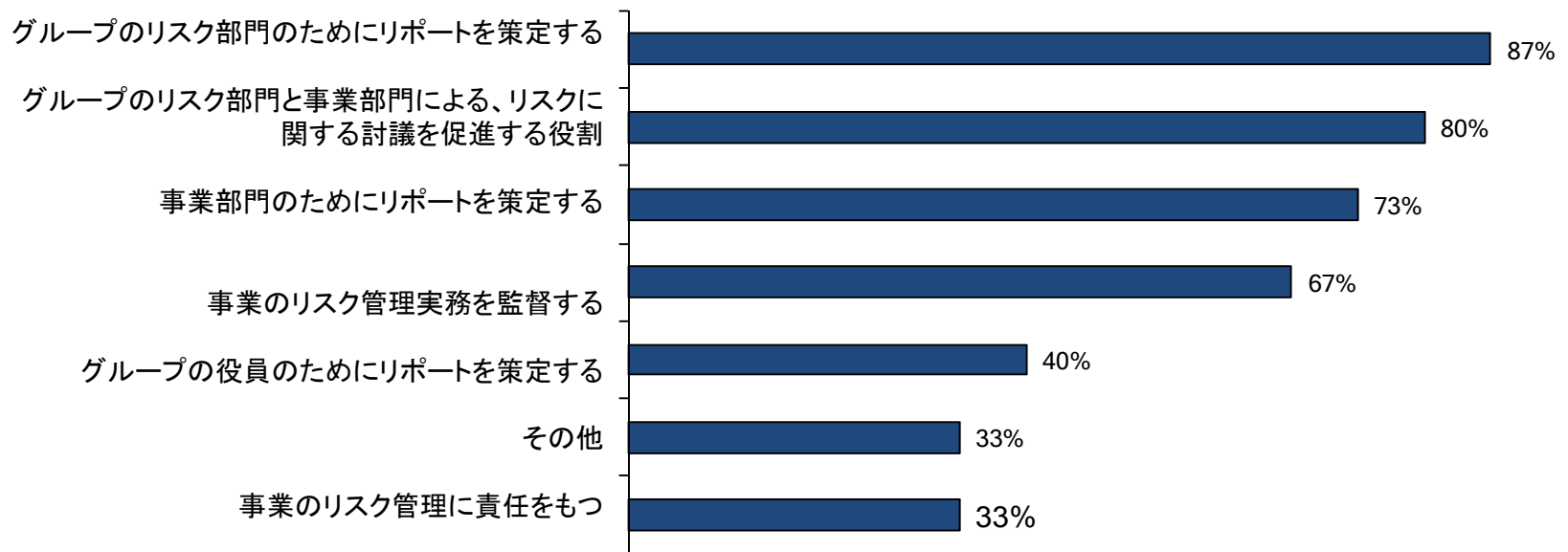
グループ全体のリスク管理評価において、各国のリスク管理部門が果たす役割は？ (複数回答可)

1. グループのリスク部門のためにレポートを策定する
2. グループのリスク部門と事業部門によるリスクに関する討議を促進する役割
3. 事業部門のためにレポートを策定する
4. 事業のリスク管理実務を監督する
5. グループの役員のためにレポートを策定する
6. その他
7. 事業のリスク管理に責任をもつ



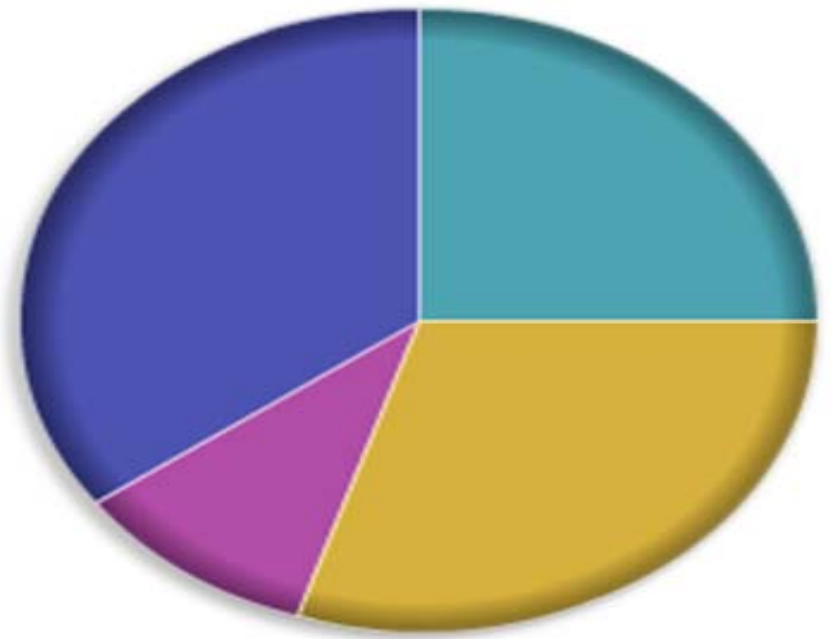
各国のリスク管理部門は、グループ全体のリスク管理評価に不可欠であり、多くの目的を果たしている

Q. グループ全体のリスク管理評価において、各国のリスク管理部門が果たす役割は？



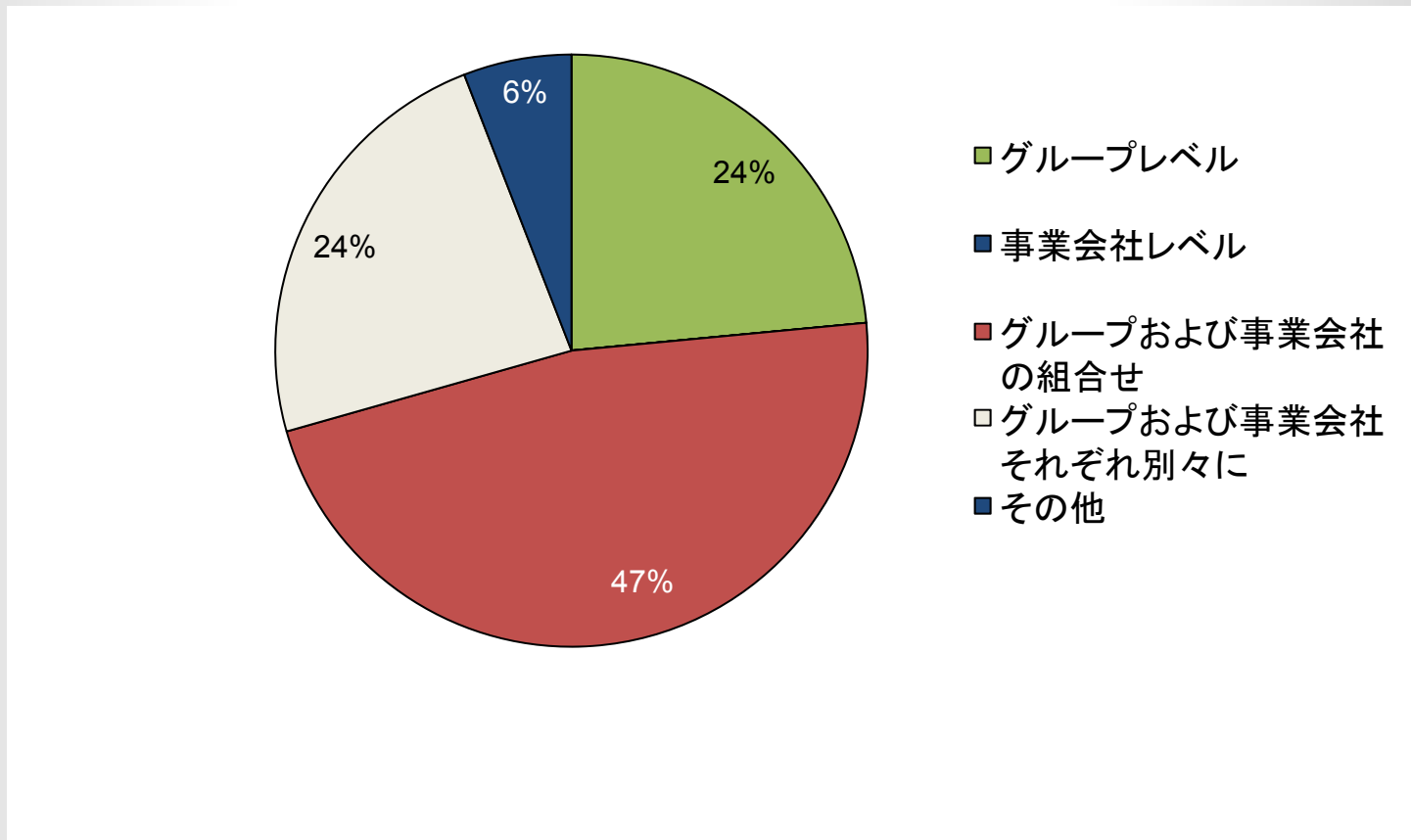
グループのリスクプロファイルの評価はどのように行いますか？

- A. グループレベル
- B. 事業会社レベル
- C. グループおよび事業会社の組合せ
- D. グループおよび事業会社それぞれ
- E. その他



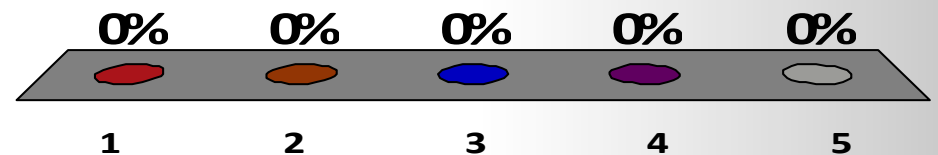
グループのリスクプロファイルの評価は、グループあるいは事業会社レベルで行われ、保険会社・再保険会社、生命保険・損害保険、そして様々な商品種目別にビジネスモデルが異なることを考慮に入れる必要がある

Q. グループのリスクプロファイルの評価はどのように行いますか？



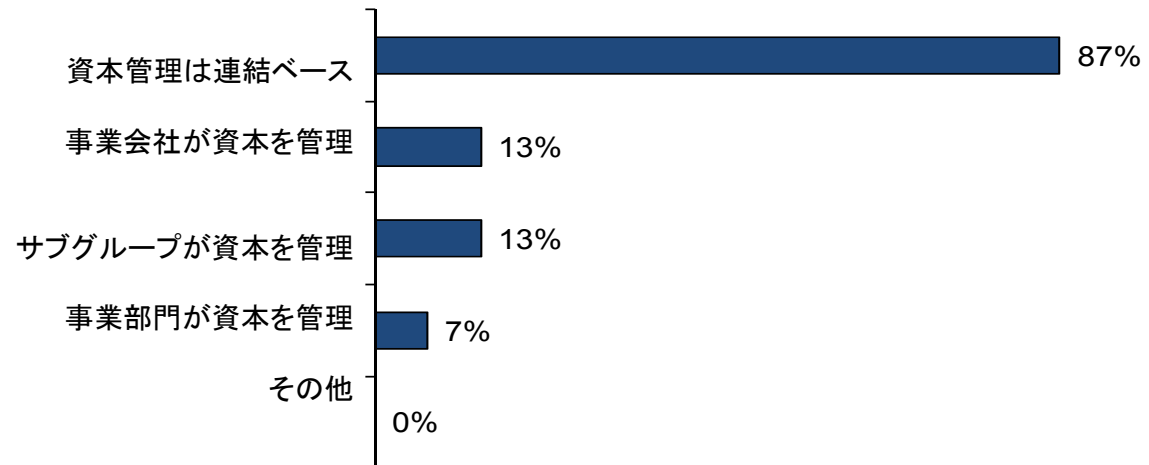
グループの資本管理は連結ベースで行いますか？それとも、事業会社、サブグループ、または事業部門がそれぞれ個別に資本を管理できますか？
 (2つまで複数回答可)

1. 資本管理は連結ベース
2. 事業会社が資本を管理
3. サブグループが資本を管理
4. 事業部門が資本を管理
5. その他



大半の保険会社において、グループの資本管理は連結ベースで行うが、事業会社やサブグループが個別に資本を管理できる場合もある

Q. グループの資本管理は連結ベースで行いますか？それとも、事業会社、サブグループ、または事業部門がそれぞれ個別に資本を管理できますか？

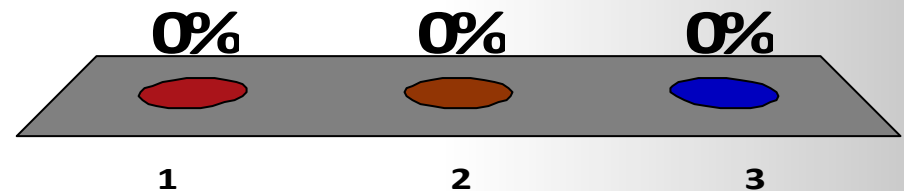


「その他」の記入例

- グループレベルと事業部門ベースの両方（活動によっては事業部門レベルのほうが適切）
- グループベースおよび国ベースの両方

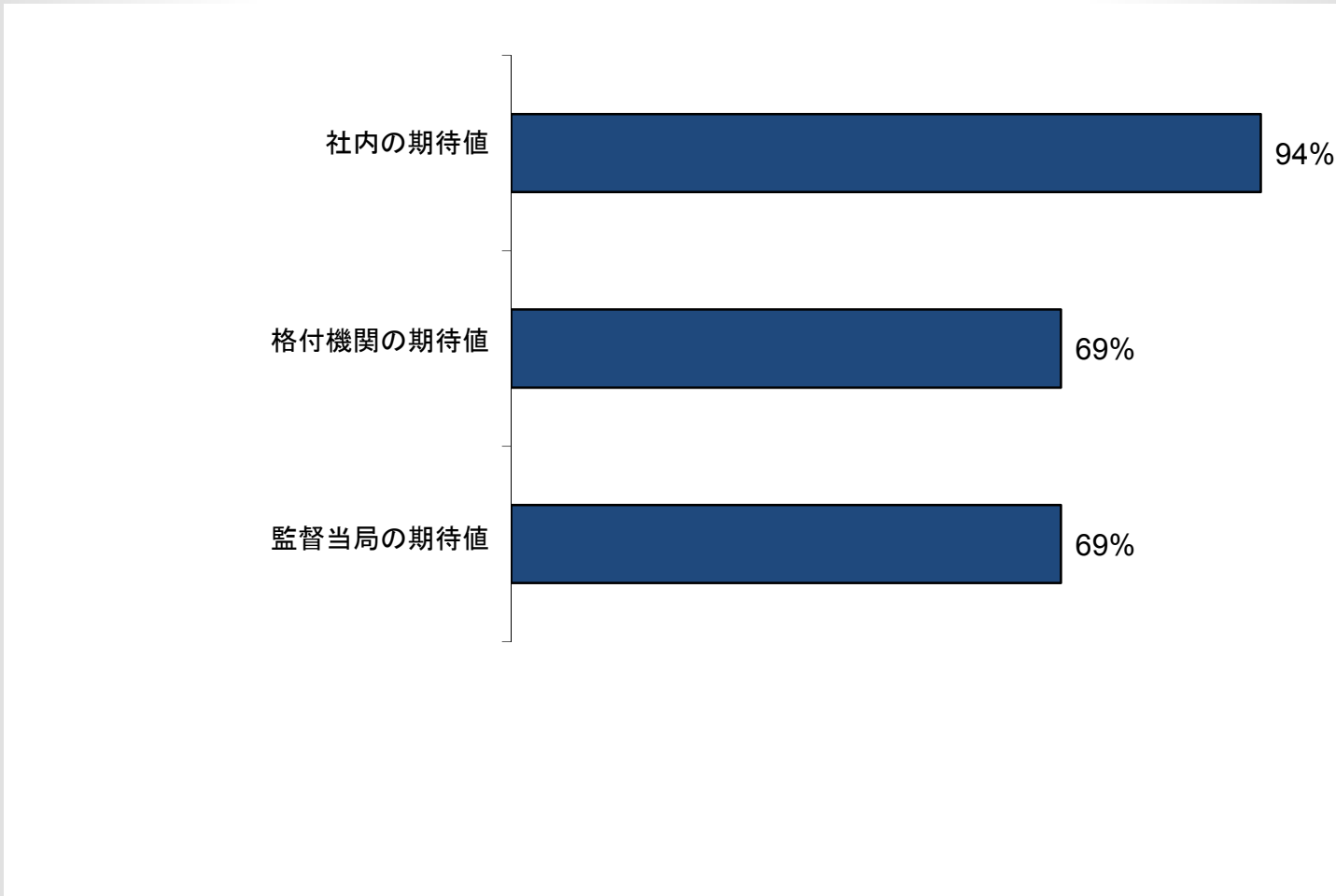
グループレベルでは何に基づいて資本を管理していますか？（複数回答可）

1. 社内の期待値
2. 格付機関の期待値
3. 監督当局の期待値



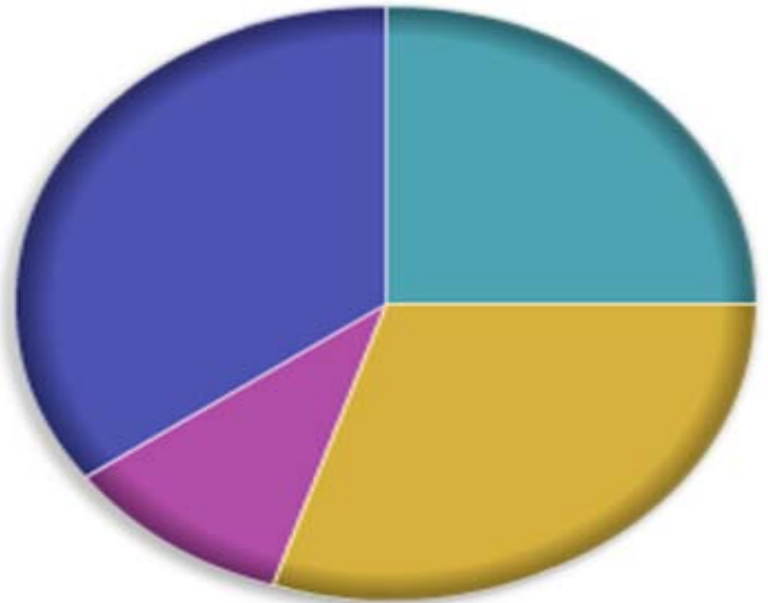
資本は社内や監督当局、格付機関の期待値に基づいてグループレベルで管理されているが、当局の期待値がすべてではない

Q. グループレベルでは何に基づいて資本を管理していますか？



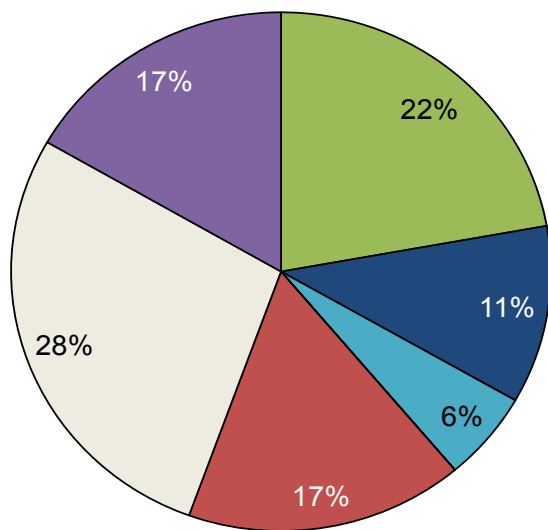
グループ全体のリスクの見方はどのように得られるか？

- A. 一元化されたモデル＋共通のアサンプション・シナリオ・ストレス
- B. 一元化されたモデル＋アサンプション・シナリオ・ストレスは共通ではない
- C. 分散化されたモデル＋共通のアサンプション・シナリオ・ストレス
- D. 分散化されたモデル＋アサンプション・シナリオ・ストレスは共通ではない
- E. 一元化されたモデルと分散化されたモデルの組合せ＋共通のアサンプション・シナリオ・ストレス
- F. 一元化されたモデルと分散化されたモデルの組合せ＋アサンプション・シナリオ・ストレスは共通ではない
- G. その他



グループ全体のリスクの見方は、一元化されたモデル、分散化されたモデル、あるいはその組合せによって決定する

Q. グループ全体のリスクの見方はどのように得られるか？



■ 一元化されたモデル + 共通のアサンプション・シナリオ・ストレス

■ 一元化されたモデル + アサンプション・シナリオ・ストレスは共通ではない

■ 分散化されたモデル + 共通のアサンプション・シナリオ・ストレス

■ 分散化されたモデル + アサンプション・シナリオ・ストレスは共通ではない

■ 一元化されたモデルと分散化されたモデルの組合せ + 共通のアサンプション・シナリオ・ストレス

■ 一元化されたモデルと分散化されたモデルの組合せ + アサンプション・シナリオ・ストレスは共通ではない

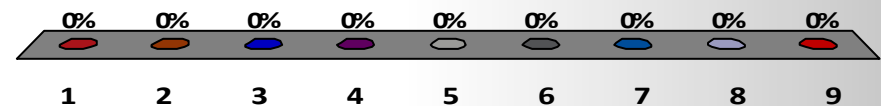
■ その他

「その他」の記入例

- 一元化されたモデルと分散化されたモデルの組合せ + アサンプション・シナリオ・ストレスは共通だが、応用形が可能
- グループレベルの合算 + アサンプション・シナリオ・ストレスは各国レベル
- ソフトウェアを用いてリスクの合算を行う

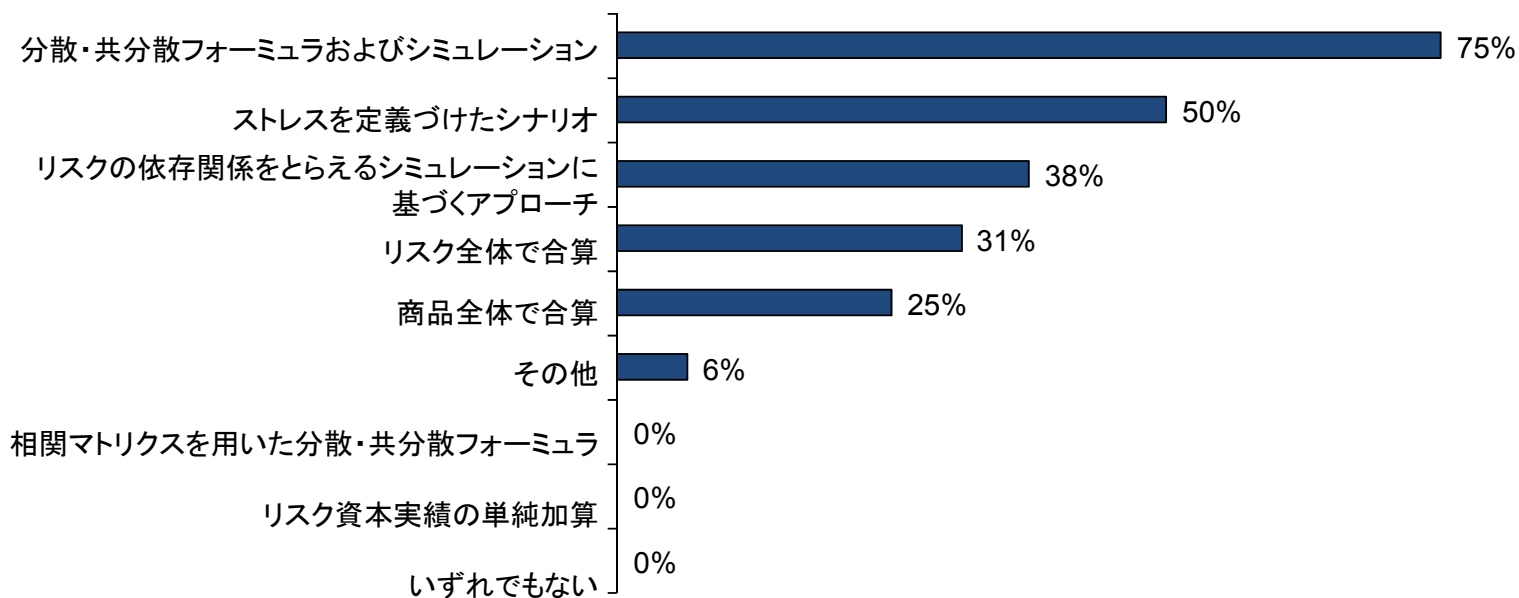
グループのリスクプロファイルをどのように評価しますか？ (3つまで複数回答可)

1. 分散・共分散フォーミュラおよびシミュレーション
2. ストレスを定義づけたシナリオ
3. リスクの依存関係をとらえるシミュレーションに基づくアプローチ
4. リスク全体で合算
5. 商品全体で合算
6. その他
7. 相関マトリクスを用いた分散・共分散フォーミュラ
8. リスク資本実績の単純加算
9. いずれでもない



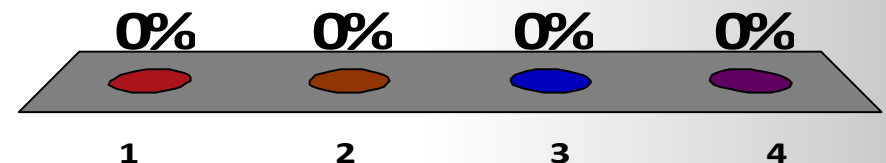
様々なリスクの分布や相関関係を合算する方法は多岐にわたる

Q. グループのリスクプロファイルをどのように評価しますか？



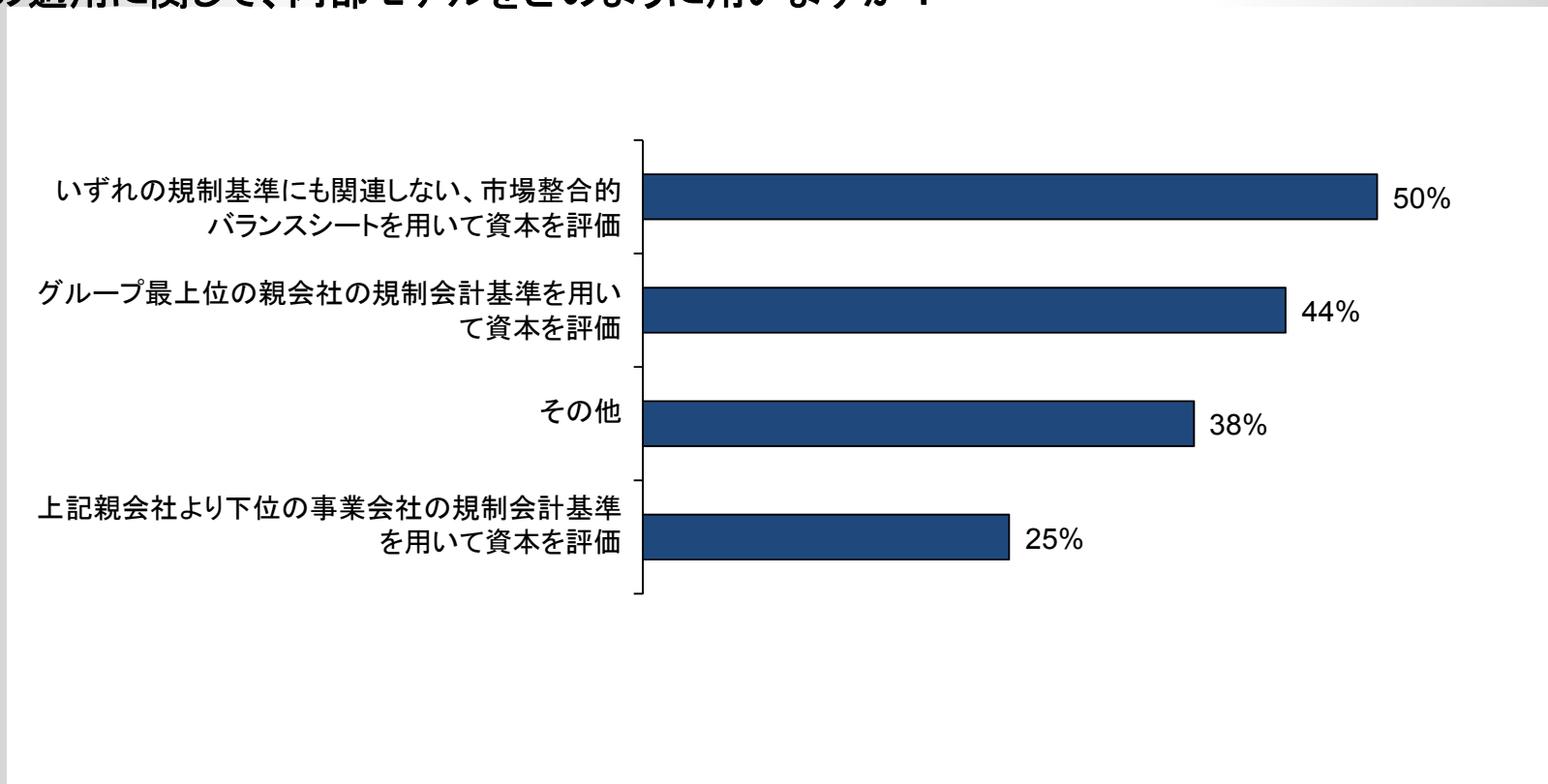
ComFrame(共通の枠組み)のドラフトに基づくグループの資本評価に対するシナリオベースのアプローチに関して、内部モデルをどのように用いますか？

1. いずれの規制基準にも関連しない、市場整合的バランスシートを用いて資本を評価
2. グループ最上位の親会社の規制会計基準を用いて資本を評価
3. その他
4. 上記親会社より下位の事業会社の規制会計基準を用いて資本を評価



ComFrame(共通の枠組み)のドラフトに基づくグループの資本評価に対するシナリオベースのアプローチに、保険会社は内部モデルを用いる予定

Q. ComFrame(共通の枠組み)のドラフトに基づくグループの資本評価に対するシナリオベースのアプローチの適用に関して、内部モデルをどのように用いますか？

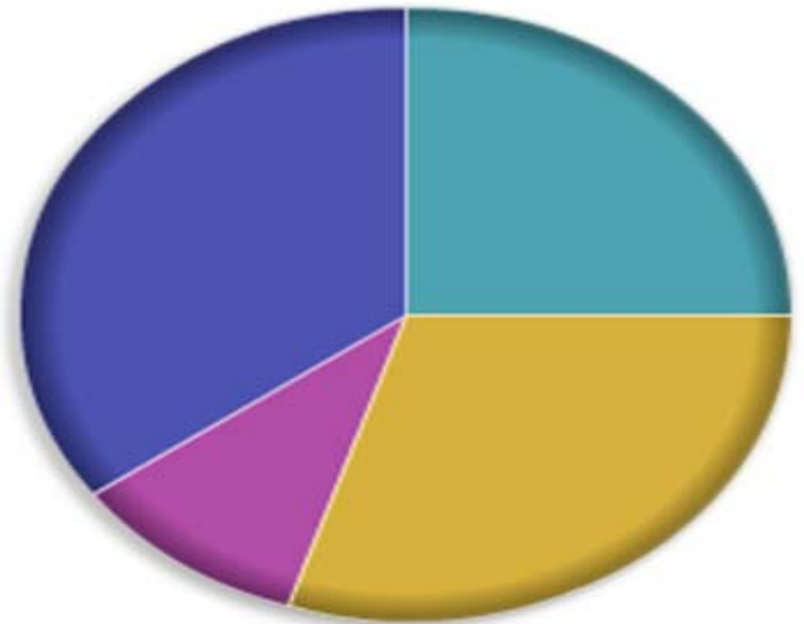


「その他」の記入例

- モデルを用いて、リスク種類別にリスク調整資本を見積る
- 現行の内部モデル、およびComFrame(共通の枠組み)の調整に対応して修正した各国要件の財務諸表を用い、ストレスの特性によっては、付加的な調整を加える

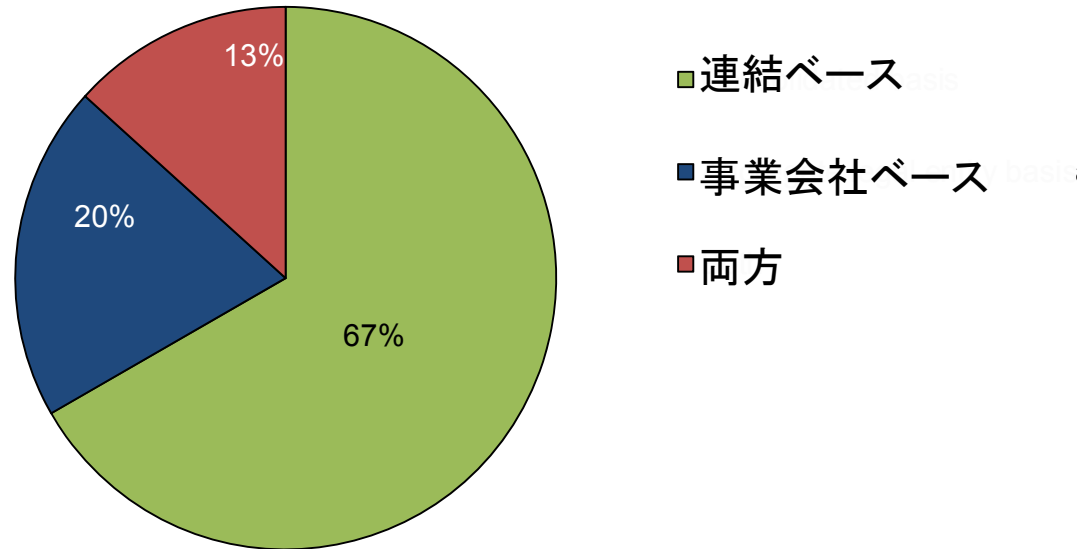
監督当局はどのようにグループ全体の資本評価を行うべきか？

- A. 連結ベース
- B. 事業会社ベース
- C. 両方



監督当局はグループ全体の資本を連結ベースで評価すべきと考える 保険会社が大半を占める

Q監督当局はどのようにグループ全体の資本評価を行うべきか？



追加のコメント

- 連結ベースの資本評価は、共通会計基準の策定や管轄地域の現行法規制体系の代用制限によって大きく左右される
- グループ資本の有益な評価が得られ、グローバルな企業間での比較を可能にするためには、両方とも対応が必要

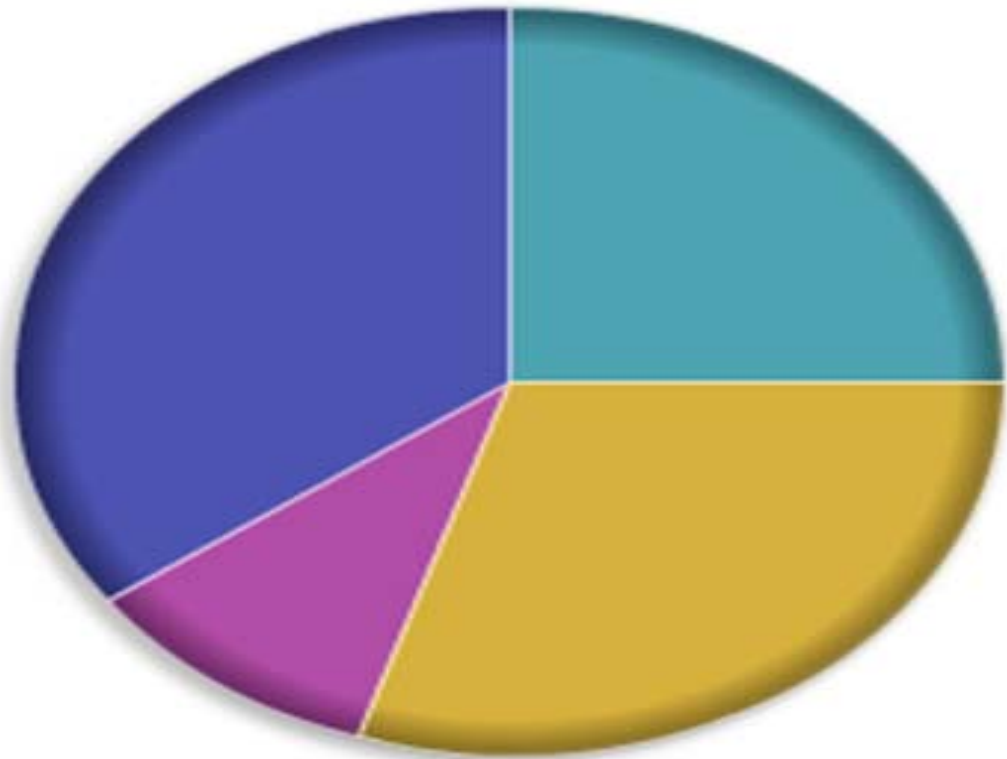
グループレベルでリスクの影響度を評価する方法は多数ある

Q. グループがリスクの影響度を示す他の方法は？

- 下記に関するストレステスト・シナリオ分析
 - グループの規制会計基準
 - 一般目的財務諸表
 - エコノミックキャピタルモデルの利用を含む経済ベースのアプローチ
 - 規制会計と経済ベースの財務諸表の組合せ
- 単純なレベレッジの算定
- 修正標準モデルまたはリスクベース資本のアプローチ
- ストレスの加わる環境で、保険会社が将来の給付金を支払うのに十分な資本を有するかどうか分析する、キャッシュフロー・ランオフに基づく分析
- 当局は、保険会社の現行実務を理解・評価するのに時間がかかる

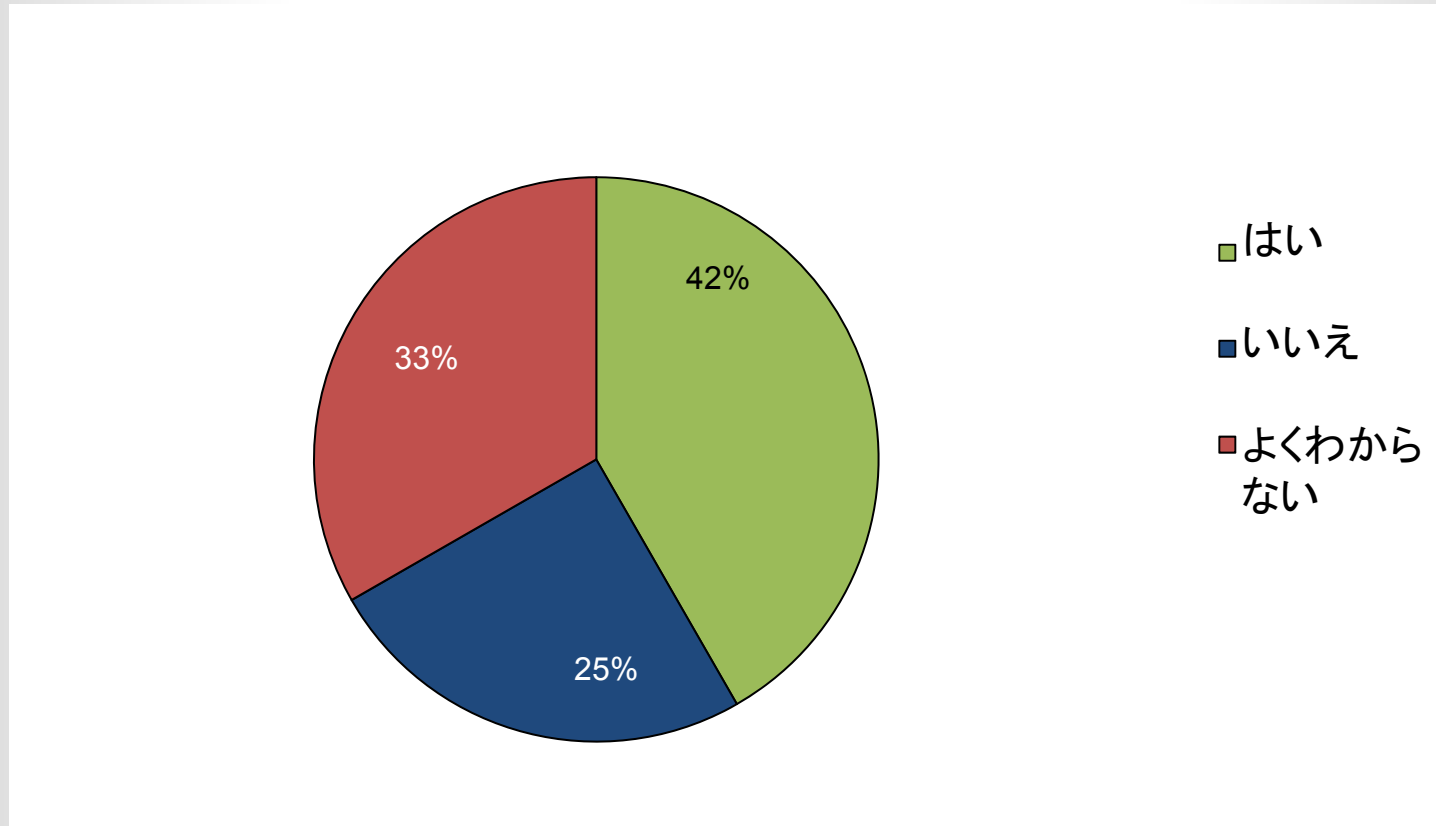
提案中のComFrame(共通の枠組み)のグループ資本評価プロセスでは「リスク感応的な」バランスシートに重点が置かれているが、これは大きな懸念材料になるか？

1. はい
2. いいえ
3. よくわからない



US GAAP、または保険負債が市場整合的であることを課さない他の財務報告基準を用いるグループにとって、「リスク感応的な」バランスシートに基づく、提案中のComFrame(共通の枠組み)のグループ資本評価プロセスは、大きな懸念材料になるという答えが大半を占める

Q. 提案中のComFrame(共通の枠組み)のグループ資本評価プロセスでは「リスク感応的」バランスシートに重点が置かれているが、これは大きな懸念材料になるか？



RGA®

RGAのERMプログラム概要

ERMの目標および指針

目標

指針

- 下記を目的に、組織が直面する重大リスクすべてに対する継続的な特定や評価、低減、モニタリング、伝達を行う
 - リスクをすべて効果的に管理
 - 顧客や株主、社員、他のステークホルダーへの保護を強化
- 下記を目的に、ERMのフレームワークは、組織におけるリスク・リターンのプロファイルを評価する
 - 意思決定の向上

- RGAは、優位性のある分野でカウンターパーティが望まないリスクを軽減することで株主価値を創出する、グローバルな事業を行っている。RGAの成功は精巧な危険選択と慎重なリスク管理に基づく
 - RGAの主なカウンターパーティ(お客様)は、RGAが再保険会社として対応する生命保険会社である
 - 当然、RGAが引受けるリスクには、RGAが優位性を持たない他の(付随的な)リスクが伴う。こうしたリスクは、実現可能なレベルまで必ず低減する

ERMフレームワーク

リスク管理の実施行程：長い旅路

現状の評価

「リスク」に何か重大な事項が起きている – どんな影響があるのか？

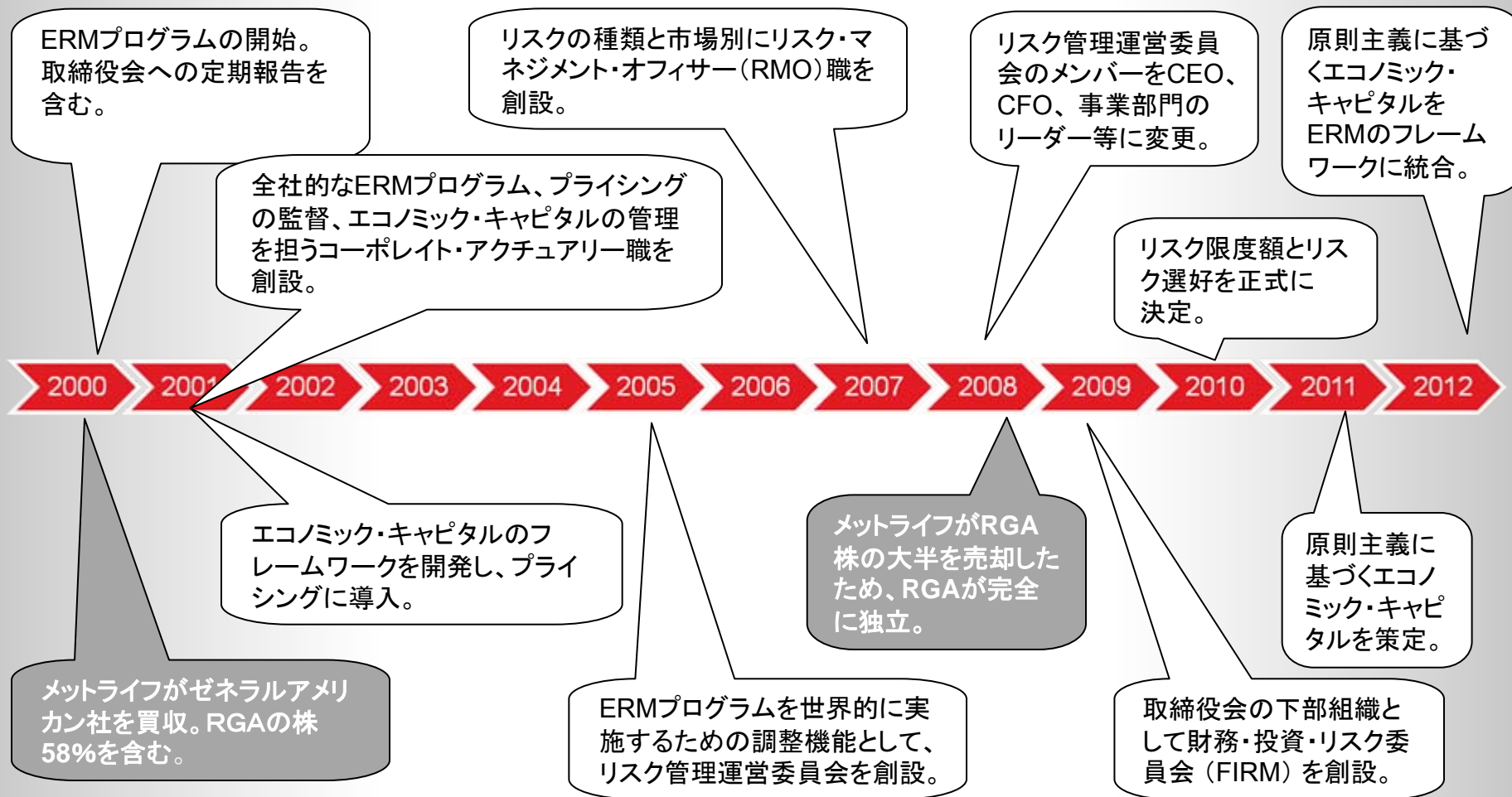
新しいリスク管理のためのシステム、プロセス、組織の導入と実施

「毎年、リスク管理、リスク報告の手法が専門的で高度になっていく。それは単独のプロセスではなく、業務決定に不可欠な一部になっている。報告された数値について、ますます理解と信頼が高まる」

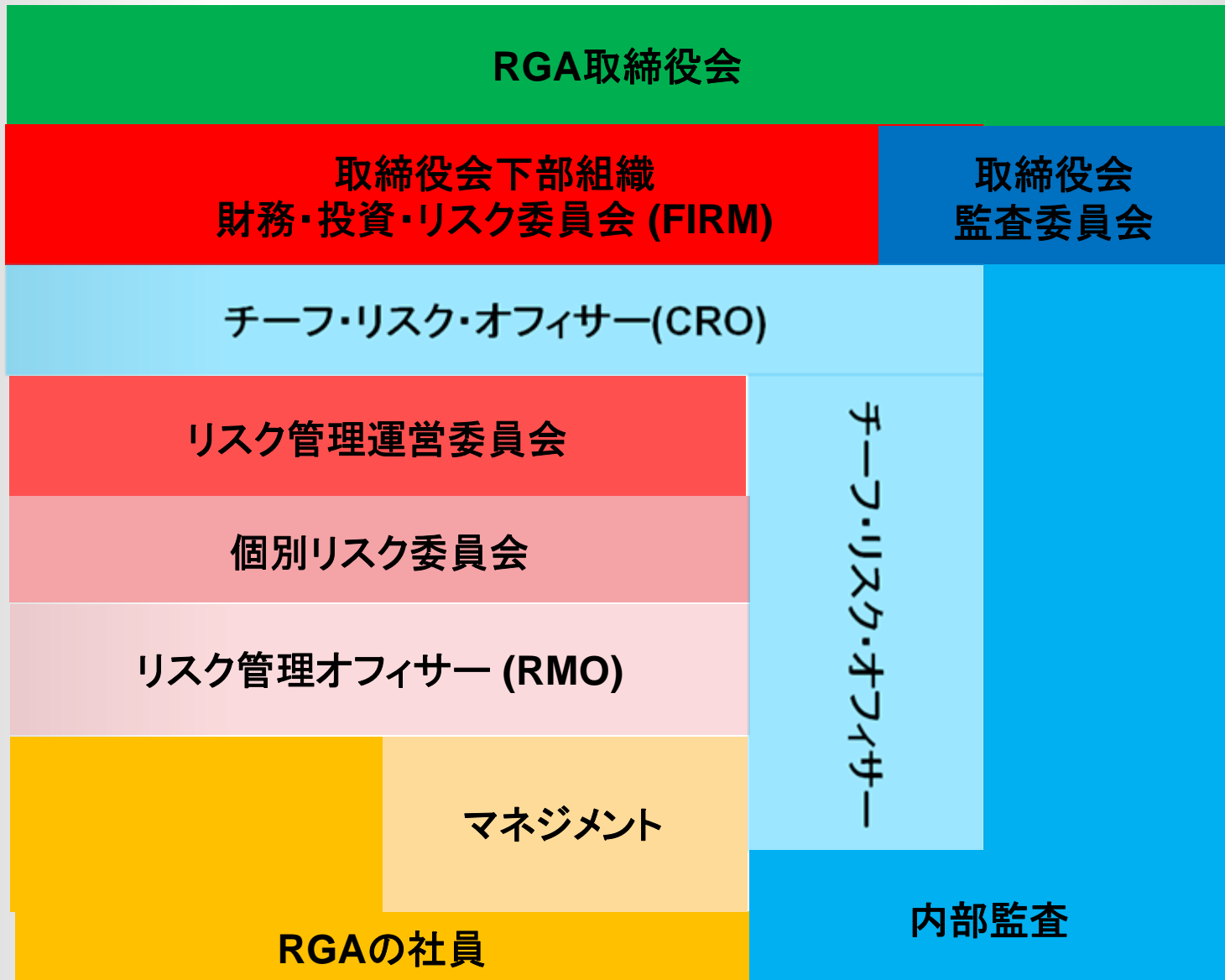
実施後の状況

「業務を違ったやり方で行っていたこと自体が驚きとなる」

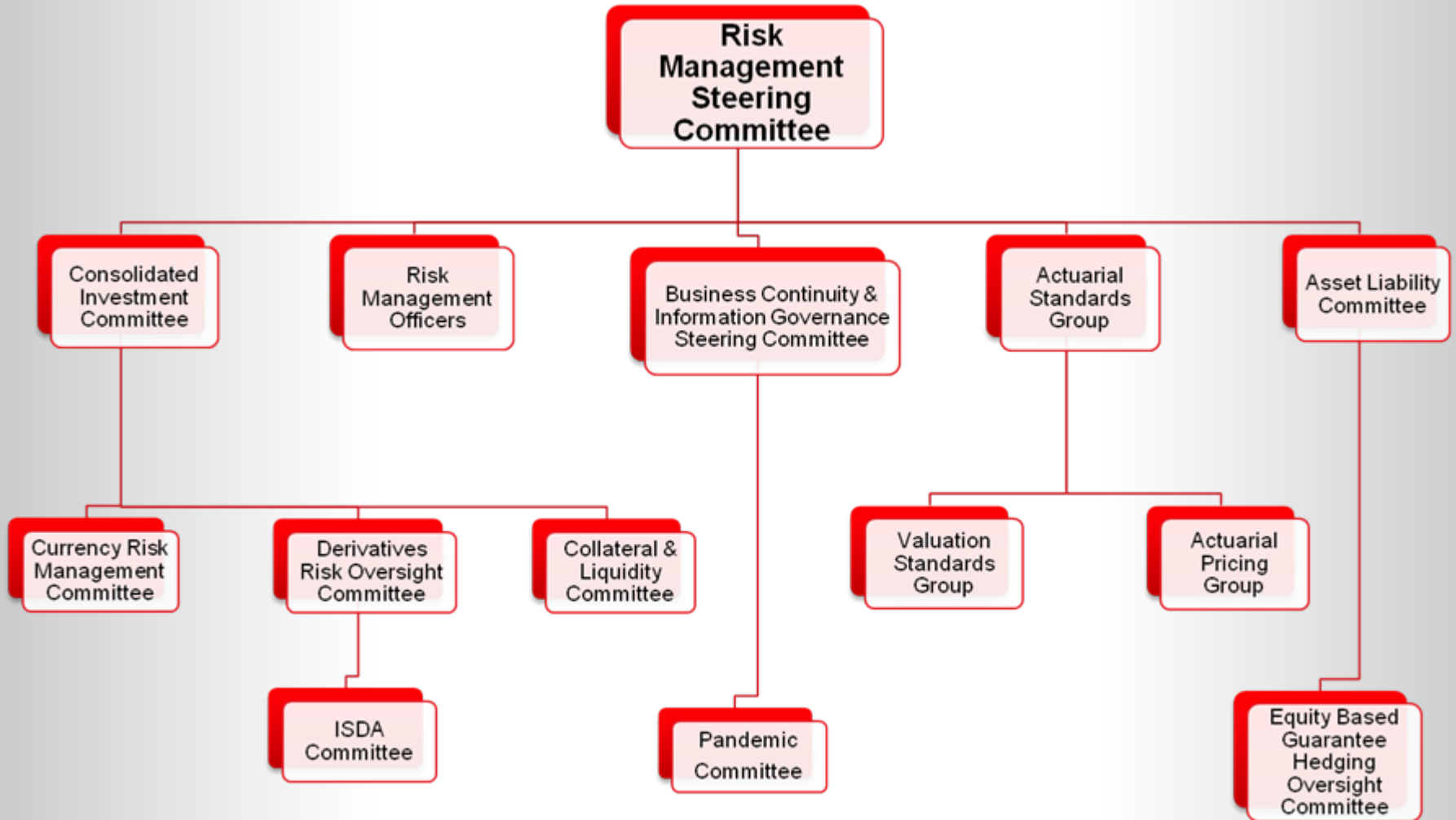
RGAAにおけるERMの歴史 - 長い旅路



ERM推進体制



ERM委员会体制



ERMプロセス

リスクの低減・計画・実行

リスクターゲットおよびリスク限度額

- 約30のリスクを含む
- リスク管理運営委員会が全件を承認し、年次レビューを行う
 - 原則主義に基づくエコノミックキャピタルを反映するための検討・更新が進行中
- 会社のリスク全体の理解・管理を向上させるため、継続して用いる管理ツール
- リスクターゲットは、望ましいリスクミックスによるリスク・エクスポージャーの目標範囲を示す
- リスク限度額はリスク・エクスポージャーの最大限度額
- 両方ともリスク低減策や構造的コントロールを差し引いたもの
 - 構造的コントロールは、リスク限度額に比べて限定的で詳細なレベルのリスクに対応
 - 資本入手性およびリスク低減ツール(被保険者1人当たり保有限度額、ピアレビュー、権限のリミット、内部・外部監査、SOXプロセスレビュー、および資産集中リミット等)を含む

ERMプロセス

リスクの特定と評価

Insurance

- Mortality
 - Misestimation
 - Catastrophe
 - Volatility
- Morbidity
 - Misestimation
 - Catastrophe
 - Volatility
- Policyholder behavior
 - Lapse
 - Withdrawals
 - Fund allocation
- Client recapture
- Longevity

Market

- Interest rate
- Currency
- Equity
- Inflation

Credit

- Credit migration/ asset default
- Insurance Counterparty

Operational

- Process
 - Administration
 - Claims
 - Disruption of operations
 - IT security
 - Pricing process
 - Underwriting process
- Legal/Regulatory
 - Legal/ Compliance
 - Regulatory change
 - Sovereign
- Financial
 - Collateral
 - Expenses
 - Financing
 - Liquidity
 - Tax loss utilization
- Intangibles
 - Human Capital
 - Ratings
 - Reputation
 - Strategy

RGAグローバルのリスク限度額体制

By Market

	Sponsor	Owner	Facilitator	Latest Update
1 Alternative Investments				
2 Variable Annuities				
3 Fixed Indexed Annuities				
4 Fixed Annuities				
5 COLI / BOLI				
6 CAT Cover				
7 Creditor Insurance				
8 Currency				
9 Financial Reinsurance				
10 Geographic Exposure				
12 Longevity				
13 Individual Life				
14 Group Life				
15 Accidental				
16 Medical				
17 CI				
18 LTC				
19 DI				
20 TPD				
21 Property & Casualty				
22 Block Re				
23 Mortgage Servicing				

RGAグローバルのリスクリミット体制

By Risk

		Sponsor	Owner	Facilitator	Latest Update
1	Asset Leverage				
2	Collateral				
3	Credit Migration / Asset Default				
4	Currency				
5	Financing				
6	Insurance Counterparty				
7	Interest Rate				
8	Liquidity				
9	Net Mortality				
10	Lapse				
12	Fund Allocation (Basis Risk)				
13	Withdrawal (Annuities)				
14	Tax Loss Utilization				

ERMプロセス

リスクのモニタリングと報告

- 正式化された四半期報告プロセス
- 「ERM報告」がそのハイライト
- プロセス
 - RMOおよびCRO全員による独立した討議
 - 新たなリスクを特定し、リスク管理プロセスをアップデート
 - RGAの主要リスクすべてに関する定性的・定量的評価
 - 主要指標
 - 定性的リスク評価
 - リスク限度額の評価
 - 定量的リスク評価(リスク限度額・リスク選好と比較)
 - リスク管理運営委員会および取締役会下部組織FIRMへ報告・討議

ERMに関する継続的活動

- ERMによる、全社を通じたリスクのモニタリング、特定、評価、および報告を更に徹底
- 多様な規制要件の下、すべての事業会社において高まるERMリポーティングのニーズに対応
- 原則主義に基づくエコノミックキャピタルのERMフレームワークへの統合を継続
- グローバルなリスク許容度規定を策定し、リスク限度額のプロセスを向上させ、規定と戦略の整合性を確かにする
- 全社レベルのORSA(リスクとソルベンシーの自己評価)プロセスの策定に対応(ERM文書化の統合、リスクの定量化、および将来の資本ニーズ予測を含む)

質疑応答





ERM

—貴社のリスク管理体制は？

日本アクチュアリー会 第2回月例会

2013年7月17日

RGAインターナショナル・コーポレーション

グローバル・ファイナンシャル・ソリューション担当エグゼクティブ・ヴァイス・プレジデント兼最高執行責任者

デイビッド・ベッチャー FSA FCIA MAAA